

ふじのくに県民クラブ

県政レポート

vol.15
平成28年9月発行

ご挨拶

中澤 通訓 会長（静岡市清水区選出 当選7回）

今年度から、県議会第2会派「ふじのくに県民クラブ」(20名)の会長に就任いたしました中澤通訓です。どうぞよろしくお願ひいたします。



日本の高度成長期ははるか昔のこととなり、人口減少と少子高齢化が襲ってきています。さらにアベノミクスの効果はほぼ東京限定的なことも明白になりつつあるうちに、「地方消滅の時代」などと、厳しい現実と明るくない将来像がニュースで踊る昨今ですが、「日本の理想郷ふじのくに」をつくるために、静岡県はそんな時だからこそ、生き残りをかけて、夢と希望を創るために「攻めの県政」を展開してゆかねばならないと考えています。

「ふじのくに県民クラブ」はそんな前向きで建設的な政策提言をし続ける政策集団です。みなさまぜひご期待ください！



〈H28年度会派役員〉
左から遠藤政調会長
高田副会長、川勝知事
中澤会長、桜町幹事長
阿部総務会長



対談レポート

川勝県政2期目最終年に向けて 平成28年8月26日対談

川勝平太 知事 / 総務会長 阿部卓也 県議

阿部 知事におかれましては忙しい夏をお過ごしですね。

川勝 今年の夏は、特に重要なモンゴル、台湾と海外出張がかさなりましたからね。本当はブラジルも航空産業の相互提携のためにエンブラエル社と航空大学にいきかけたのですが…(苦笑)。阿部議員もモンゴル出張同行ありがとうございました。今回は特に議員団の団長としての大任でしたが、モンゴルの新政権側の対応が予想以上でしたね。

阿部 静岡県への期待の大きさをひしひしと感じましたね。まさか大統領だけでなく、新首相にあんなに長時間お時間をいただけるとは思いませんでしたし、協定を締結している各省もさらなる関係強化を求めてきましたし、また、ドルノゴビ県出身のバトソリ議員も教育・文化・科学・スポーツ大臣になられて、今までの打っておいした布石が当たったかっこうになりましたね。

川勝 いやいや、それはあなたが旧政権時代に「二大政党だから両にらみして野党ともパイプを作っておきましょう」と言って、地道に人脈をつくっておいてくれたおかげです。その先見の明に感銘いたしました。

阿部 ありがとうございます。ご評価いただき恐縮です。ただこれは、モンゴル友好議員連盟幹事長として当然の布石を打ってきただけのこと、今後は具体的に踏み込んだカタチで経済団の商談が成立してゆくか否か、教育団の有意な人材受け入れや交流が進んでゆくか否かにかかっているのではないかと考えています。

川勝 内陸国家だけに、当初の予想以上に中国とロシアの関税や輸送コストの壁にあたっていることは事実ですので、経済関係は今後も粘り強い交渉が必要ですね。ただ、人材については、世界でも屈指の語学学習能力の高いモンゴル人の優秀な人材を静岡県に留学をしていただく体制などは、今回の静岡大学の協定締結でさらに強固になってゆくと思っておりますので楽しみです。

阿部 モンゴルの人材は、経済面でもIT化の進む昨今ですので、業務のアウトソーシングなどのカタチでも生かせるのではないかと今回私も感じてきましたので、今後もさまざまなチャレンジをしてゆきたいと思っています。

一方の台湾は、さまざまなカタチで花開くことになりそうですね。

川勝 天浜線と集集線(しゅうしゅうせん)の友好協定の締結、日月潭(にちげつたん)と浜名湖の友好提携の締結は、今後の相互送客と静岡空港台湾便の複線化に大きな弾みとなるでしょうし、台湾の大きな経済団体である三々会との交

流強化は県内経済界の台湾における経済活動の拡大に大きく寄与できるものと思っていますので、しっかり務めを果たしてくる予定です。

阿部 さて、改めてお伺ひいたしますが、知事にとってはこの一年は2期目の任期の最終年、2期目の集大成の時期でもあります。どのような姿勢で臨まれますか。

川勝 「富国徳の理想郷ふじのくにづくり」を7年間掲げてきました。具体的には「富を作り出し」「立派な人材を育てゆく」ということ、プラス「防災」です。

「富をつくる」ということでは、就任時の有効求人倍率が0.38であったのが、今年4月には1.36まで回復しました。また、危機管理と経済成長の両立を実現するために、沿岸部の災害リスクを軽減し、新東名開通に伴う内陸部の発展の可能性を拓いてゆく「内陸フロンティア構想」も、浜松での防潮堤建設をはじめ全県で動き始めており、静岡県のテコ入れによる地域経済の活性化に寄与できていると感じています。さらに、エネルギーの地産地消も、太陽光発電導入のための施策が効果を挙げ、農業用水を活用した小水力発電の導入なども成功しています。

阿部 「内陸フロンティア構想」はまさに、静岡県版ニューディール政策です。東日本大震災の折の東部エリアでの停電を教訓としたエネルギーの地産地消についても小水力発電の導入など確実に進捗を見せていますね。

川勝 さらに、新しい産業を興すことも大切ですが、現在は「健康産業」ともいえる医薬品と医療機器産業が1兆円産業に成長し、化粧品産業も4000億円を超えるいずれも日本一の産業となりました。これは、「健康寿命日本一」にも寄与しておりまして、5月には健康寿命のさらなる延伸に向けて、科学的な視点からの施策づくりのために「社会健康医学基本構想検討委員会」が立ち上がるなど、複合的な効果を挙げています。

健康寿命が長いということは、静岡県が暮らしやすい理想郷であるということを示していることにもなります。

阿部 生活基盤整備事業分野も目覚ましい成果がありましたね。

川勝 新東名高速道路の開通、静岡空港の開港、来年度に予定される中部横断自動車道の開通、三遠南信自動車道の一部開通、伊豆縦貫道の延伸などは、防災先進県をめざす静岡県にとっては、タイムリーであり、これをいかさない手はありません。これらの基幹道路に関連させて、防災に直結する道路整備、橋梁の点検整備を進めました。また、近年の気候変動による集中的豪雨対策として河川整備対策も重点的に急がせています。

阿部 私の地元でも、新東名関連整備事業や馬込川や灰木川の関連整備も急ピッチで進展しています。あとは、例えばせっかく「緊急輸送路指定」をして県費を投入できるようにしたにもかかわらず遅れている浜北馬郡線整備に見るように、地元市町との連携が大切ですね。

川勝 そうですね。市町のみならずには「県民本位」で考える、県のスピード感となによりも防災第一という大局観を



ご理解いただけるというのですが。

阿部 農林水産業分野、観光分野、文化芸術分野も大きな成果がでていますね。

川勝 阿部議員の提案もだいぶいただきましたね。「食の仕事人」「県道223号」「富士山トレイルコース」「こども芸術大学」「浜名湖SA舟運の実現」「農機具バンク」、それに「天浜線の台湾鉄道との友好提携」などなど、みんなあなたの提案ではないですか。

阿部 恐悦至極です。当選以来創造的な政策提案を心がけてきたのでこうして政策として実現されていることはうれしい限りです。でも、私の提案以外でも多くの成功事例があります。

川勝 農林水産業分野も、成長分野と位置付けています。日本一の219の品目数を誇るだけでなく、その品質も折り紙付きです。一部では輸出も始まりましたし、IT化やAI(人工知能)やロボットによる作業の軽減など、この分野には「産業革命」をおこななければいけないと思っています。

観光分野は、「富士山世界遺産」「韮山反射炉世界遺産」「伊豆半島ジオパーク」に続いてこのたび駿河湾が「世界で一番美しい湾クラブ」への加盟が内定いたしました。

こうして県内の観光資産につぎつぎとスポットをあてていくことが大切です。次はいよいよ浜名湖をなんとかしないといけませんね！

文化芸術分野も、実は成長分野と呼んでもよいと思っています。県立劇団であるSPACが世界的な評価をいただいていることや、次期東京オリンピックの文化プログラムづくりも日本の象徴たる富士山を持つ静岡県としては、積極的に世界にPRをしてゆくチャンスだと思っていますので、これを活かしてゆかねばならないと考えています。

阿部 総仕上げと言うよりも、新しいチャレンジも含めた意欲的な一年になりそうですね。我々「ふじのくに県民クラブ」としても、より一層政策研究に力を入れて、よりよい提言をしてゆきますよ！

最後に、川勝知事の描く静岡県の将来像をお聞きます。

川勝 もとより現実は一歩一歩しか進みません。理想というのは富士山の如きものでございまして、常に仰ぎ見るものである。そしてそれに完成はありません。常に理想を失わずに未完成のまま、完成しようという意思を持ち続けること、これがとても大切なことだと思っています。日本の理想として富士山はそういう声なき声を発せられているので、富士山に恥じない地域づくり、人づくり、そして理想郷づくりに今後ともいっしょに取り組んでゆこうではありませんか！と考えておりますので、引き続きご理解のほど、またはご支援のほどをお願い賜りたいと存じます。



エグベグドルジ大統領と



モンゴル国会議事堂

静岡県議会議員

阿部 卓也



県政レポート

平成28年 新涼号



ご挨拶

朝夕の風も涼しくなり暑かった夏も終わりが近づいてきました。みなさまお元気にお過ごしでしょうか。

私は、夏が大好きな“夏男”ですので、真っ黒に日焼けしながら元気いっぱい活動した今年の夏でありましたが、みなさま夏の良い思い出はできましたでしょうか。

さて、10年目を迎えた今年度の県議会での活動は、会派では2度目となる総務会長に就任し、主に経済界や各種団体との渉外窓口、マスコミ担当、選挙担当などを“縁の下の力持ち”役として担っております。また、議会活動のなかではずっと心がけてきた「創造的な活動」がいくつか花が開きつつあるものもあり、今号でもうれしいご報告ができるものもございます。今年度も相変わらず“攻めの県政”を作り出すために、現場感覚と大局観を併せ持ちながら、足と知恵を使って勝負をしてゆこうと思っていますので、今後とも何卒よろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成28年度 県議会での主な職務

ふじのくに県民クラブ 総務会長/政策企画・くらし環境委員会 委員/日本・モンゴル友好促進議員連盟 幹事長
私学振興議員連盟 幹事長/天竜浜名湖鉄道利活用促進議員連盟 幹事長/日華友好促進議員連盟 幹事
全国青年都道府県議会議員の会シニアクラブ 幹事長

((“あべたく”の活動を ラジオで発信中!))

1 「遊佐ちえみの“きいちゃえ静岡の政治”」
毎月第1土曜日 17:00~17:30

2 「はるかのスーージーカフェ」
第2月曜日 19:00~19:30

FM Haro! 76.1MHz



あべたく“花咲く活動”のご紹介

1 天浜線台湾友好提携、債務一掃黒字化!

県議に当選させていただいて以降、精力的に取り組んできた活動のひとつが天竜浜名湖鉄道の再建および活性化です。県議当選2年目には先輩議員を口説いて「天竜浜名湖鉄道利活用促進議員連盟」を設立し、1期生ながら幹事長に就任。以降、民間人社長の就任や、全線にわたる鉄道施設の国の文化財指定、国内外のローカル鉄道との友好提携による相互送客など、さまざまな天浜線の利活用策を講じてきました。

それらも相まって、利用者のみなさま、沿線のみなさまのご理解とご協力で、このたび、長年の懸案であった**累積赤字を解消**することができました。資本金を切り崩しての借金返済ではありますが、これも近年連続して続く営業黒字化に成功した賜物であり本当にうれしい限りです。また、8月末には**台湾のローカル鉄道との友好提携が締結**されるなど、今後も“攻めの天浜線”でどんどん活性化を図ってゆきたいと思っています。これからの大切な地域の足として、また“昭和の原風景”を走るローカル鉄道として国内外の観光客のみなさまが押しかけるような魅力ある鉄道づくりをめざしてがんばってゆこうと思っています。来年は大河ドラマ「おんな城主直虎」の舞台を駆け抜けるラッピング車両も登場予定です!ぜひご期待ください!
※天竜川川下り船転覆事故から今年で5年になります。お亡くなりになられたかたがたのご冥福を心よりお祈り申し上げます。事故を風化させず、今後の旅客の安全運航のために尽くすことを我々も強く考えてゆく所存です。



扇状車庫

台湾・平溪線

2 森林公園整備計画、周辺道路整備促進

県議会議員当選以来取り組んできた課題のひとつであった、**森林公園の再整備計画**が始動しました。今回の大規模整備計画では、老朽化した施設の撤去や更新、枯れたアカマツの撤去と森林の再生、公園内案内板の再整備、バードピアの展示の更新などを実施します。また、浜松市と協働して新清掃工場整備に伴う**公園西側道路(県道天竜川熊小松停車場線)の拡幅や付け替え**をおこない、アクセスの改善や駐車場の拡充をおこないます。さらには、今春事故のあったイノシシなどの**獣害対策**も現在本格的に調査研究をおこない、対策を講じてゆく予定です。

3 遠州灘防潮堤建設工事 篠原工区4.5キロが完成

東日本大震災を受けて、津波に対する対策が急務となるなか、「静岡方式」と言われる防風林をかさ上げする方式の防潮堤整備の第一弾「遠州灘防潮堤建設工事」。私もこの大事業の成功のために、工事の円滑化や地元企業に特化した経済対策としての側面を重視することによって生み出される経済効果と維持管理の利点を強調してきました。

そのうち「**篠原工区4.5キロ**」がこのたび**完成**をしました。先日の完成式では多額の民間寄付をいただいた一条工務店の宮地社長と喜びを分かち合いました。残る工区の早期完成に向けて今後も努力をしております。



一条工務店宮地社長と



テープカット

4 部活動外部コーチ制度

近年全国的に課題となっていた部活動問題。こどもたちの健全な育成のためにも重要な問題だけに、長年正面から取り組んできました。このたび、私が文教警察委員長当時から提案をしてきた部活動のありかたについて、昨年秋の「地域人材を活用する人材バンク制度」の導入決定をうけて、今年度は磐田市で「**地域スポーツクラブ**」活動が**モデル的にスタート**し、さらには学校の部活動や社会教育活動に効果的に外部人材が活用できるようにするためにコーディネーターも配置し、「**外部コーチ制度**」が**スタート**しました。まずは県立高校からの取り組みですが、今後市町にも波及させて、中学校にも積極的な外部コーチの導入をはかってゆけたらと考えています。



ドルノゴビ知事と県議団

あべたく“種まき”活動紹介 ~地域外交編~

1 中国中央政府とのパイプづくり

尖閣問題などもあり、政治的には日本と中国の関係は厳しいものであると言えます。しかし、経済における現状は、国交を断絶するようなことがあっては双方の経済は成り立ちません。静岡県からも多くの企業が進出したり、商取引をしています。そう考えると、県議会議員としてはこの状態を看過するわけにはいきません。

そこで、このたび知己を得て、訪問団団長として北京を訪問、中国政府直轄のシンクタンクである「中国国際経済交流センター」副理事長と会談、そして「華僑協会」常任副会長との会談に臨むことができました。いずれも静岡県の地域外交に高い評価をいただき、11月に、日経新聞社主催で日本、中国、韓国の「三賢人会議」の静岡県開催も決まり、そこにこの「中国国際経済交流センター」の副理事長の出席が予定されています。

静岡県の地域外交は、国と国との関係だけでなく、地方がさまざまな外交のパイプを持つことで、県内外の民間交流、経済交流をスムーズに進めてゆくことや、外交ルートの複線化で、対話の場をつくり平和を推進するという意味でも重要な意味を持つと私は考えています。これぞ「地域外交」の姿です!



中国国経センター 魏建国副理事長



日本静岡県政府考察団一行 訪問世界商谷・燕郊国際貿易城 訪中を報じる記事

2 モンゴル友好提携5周年

モンゴル国との交流も、ドルノゴビ県との友好提携が5周年。食料・農牧業・軽工業省との経済協力協定締結から3周年。教育・文化・科学・スポーツ省との協力協定締結から2周年となりました。

経済成長が著しく、鉱物資源が豊富で、語学学習能力が高く親日的で優秀な人材も多いモンゴル国との交流関係は、第2段階に入りつつあります。この夏、第6次の静岡県としての訪問団が川勝知事以下60名余でモンゴル国を訪れましたが、私も議員団団長として参加しました。今回は特に、ビジネス分野での具体的な交流が成立してゆくように、中小企業診断士さん、JETRO浜松所長にもご同行をいただき、実践的な話し合いになったと思っています。また、静岡大学が留学生受け入れ協定を締結したように、今後はモンゴルの優秀な学生の静岡県での活躍が始まってゆくはずですよ。

まだまだ、大きく花咲き実になるまでは時間がかかるかもしれませんが、順調な成長をしておりますので、ご期待下さい!

今年も“歩く、話す、あべたく”は、現場感覚で静岡県を考えてゆきますので、みなさまお気軽にご意見ご要望、そしていろんなアイデアをいただきますようお願い申し上げます!思い立ったら、即電話でもメールでもお待ちしております!日頃のあべたくの活動はブログで結構まめに報告中ですので、こちらものぞいてみてください!

あべたく ブログ 検索 クリック しっかり更新中!
<http://www.abetakuya.jp>
〒434-0004 浜松市浜北区宮口 460-6
TEL 053-582-1400 FAX 053-582-1401
E-Mail: abetaku@iris.ocn.ne.jp
お気軽にお立ち寄り下さい